対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

Tsushima maru press

発　行：(公財) 対馬丸記念会
発行人：髙良　政勝
編　集：対馬丸記念会事務局

平成 26 年 10 月 25 日発行　第 29 号

特集 1 天皇皇后両陛下 ご来館

撮影／瑞慶山良和（対馬丸記念会 理事）

小桜の塔へ静かに歩み寄られ、ご献花のあと深々と犠牲者へ一礼なさました。

撮影／沖縄県（※を除く）

※撮影／瑞慶山良和（対馬丸記念会 理事）

天皇皇后両陛下　対馬丸記念館ご訪問

理事長　髙良　政勝

「只今ホテルをご出発されました」イヤホーンと小型マイクを片手にしていた警官が緊張した面持ちで報告する。これまでリラックスして雑談を交わしていた警備陣に一瞬緊張がみなぎる。

「いよいよその時が来た」。対馬丸記念会会長就任以来心待ちにしていた両陛下の行幸啓が間違いなくこの数分後に実現するのだ。

両陛下の対馬丸への思い

両陛下は対馬丸に乗船した学童たちと同世代、しかもお二人とも疎開経験があり長年対馬丸犠牲者や生存者へ深く心を寄せられてきた。このことは海底の対馬丸が発見されたときに、天皇陛下がお詠みになられた次の御製でもお分かりいただけると思う。

疎開児の
命いだきて
沈みたる
船深海に
見出されけり

また、対馬丸が撃沈された8月22日には毎年ご一家で黙祷されるとのことである（文芸春秋2003年11号）。

国策の下犠牲になった対馬丸の疎開者。彼らの冥福を祈るためにも是非天皇皇后両陛下にご来館いただきたい。しかし当然のことながら直接のお願いはできないので、宮内庁宛に何度か対馬丸に関する資料を送り（平成18年）両陛下のご来館を待った。

両陛下のご来館

「対馬丸記念館に天皇陛下がおいでになるそうだね」3月18日友人から突然電話が入る。「いまNHKのニュースでやっていたよ」「えっほんとか！！！」まさに寝耳に水、我々が知らぬ間に対馬丸への行幸啓の話は具体的に進んでいたようだ。翌19日宮内庁で打ち合わせを終えてきた県職員が記念館を訪れ具体的な報告が行われた。「6月下旬から8月下旬にかけ行幸啓が行われる予定。具体的な日程はまだ決まってない。他言は慎むこと」その日を境に俄然記念館への人の出入りが激しくなる。一般来館者の急増に加え、宮内庁からの指示を受けた沖縄県知事公室秘書課、広報交流課の職員が連日のように記念館を訪れ御休所のレイアウト、手拭きやお茶の位置、空調の温度設定、照明、奉迎スタッフの

や九州管区警察局（福岡）もマイクロバス2台で乗り付け周辺の徹底チェック。当日は側溝のふたの一つ一つにまで封印された。

緊張感いっぱいで迎えた6月27日であったが両陛下の体いっぱいから出る優しさ、微笑みに緊張もほぐれお迎えすることができました。当初私たちはなるべく多くの遺族生存者で出迎えすべく準備を進めましたが「炎天下でご高齢の方々を長時間待たせるのは忍びない」との両陛下のお心配りがあり、小桜の塔では、那覇市長　那覇市議会議長、そして対馬丸記念会理事長の3名でお迎えしました。また「つしま丸児童合唱団」の合唱も「私たちのために学校を休ませることはしないでください」と皇后陛下から子供たちへも優しいお心配りがありました。

記念館では展示をごゆっくりご覧になられました。展示説明の小生に天皇陛下は「護衛艦は助けに来なかったのですか」と質問、皇后陛下は「敵は対馬丸に子供が乗っているのを知らなかったのですか」と質問されました。

展示室見学ののち両陛下は遺族生存者の待つ部屋に移られました。高齢者や犠牲者を多く出した遺族8名、両陛下とほぼ同年齢の生存者7名と懇談されました。予定時間を大幅に超えるも一人びとりの話に熱心に耳を傾けられ、やさしいお言葉をかけられていたのが印象的でした。ご懇談後「読むだけではわからない　いろいろなことを知ることができました」と天皇陛下はご感想を述べられました。

今回の行幸啓は対馬丸関係者に取って受け取り方は一様ではない。しかし日本国象徴たる天皇が犠牲者への慰霊と、鎮魂、また遺族生存者と懇談のためおいでくださったことは一つのけじめになるのではないかと思う。

子供の戦争記念館として存在意義のある記念館にしたいものである。

沿道の一般奉迎者にもにこやかにお応えになる両陛下。　撮影／瑞慶山良和（対馬丸記念会 理事）

撮影／沖縄県

小桜の塔ご参拝のあと、対馬丸記念館をご訪問なさり、館内をご覧の後、遺族・生存者代表と御懇談なされました。

撮影／沖縄県

撮影／沖縄県

ご懇談後報道陣に囲まれインタビューを受ける、遺族・生存者の皆さん。

撮影／沖縄県

遺族撮影／瑞慶山良和（対馬丸記念会 理事）

特集２　追悼 対馬丸事件から 70 年

昭和19年８月22日に疎開船対馬丸が米潜水艦「ボーフィン号」に撃沈されてから今年で 70 年になりました。また、小桜の塔建立から60年、対馬丸記念館開館から10年と今年はいろいろな周年が重なり、天皇・皇后両陛下の行幸啓も含めて当館並びに遺族にとって大きな出来事がいろいろありました。新聞と写真で振り返ります。

平成二十六年度対馬丸七〇回忌慰霊祭
七〇回忌追悼式

◉八月二十二日（金）於：小桜の塔・記念館屋上

七〇回忌にあたる今年はいつもの慰霊祭に加えて、追悼セレモニーも実施いたしました。記念館屋上で撃沈された時間に合わせて、悪石島の方向に向かって手を合わせました。

悲しみ越え誓い
肉親の無念 忘れない
遺族
70年経ても顔浮かぶ
闇に消えた魂しのぶ
撃沈同時刻に追悼式

沖縄タイムス　平成 26 年 8 月 23 日

学童ら追悼 チョウに乗せ
平和願い 継承誓う
対馬丸撃沈70年 慰霊祭に450人
沖縄戦 70

琉球新報　平成 26 年 8 月 23 日

対馬丸 70年の鎮魂
悲劇 二度と起こさないで
遺族ら500人 冥福祈る
戦後 70年へ

沖縄タイムス　平成 26 年 8 月 23 日

二つの祈念イベントも行われました

8 月 23 日、大城立裕、佐藤 優両氏の提言型の対談が行われました。会場は次の世代を担う高校生を中心に大勢の聴衆であふれました。また、翌 24 日には、二つの合唱組曲のコンサートが催され、70 回忌にふさわしい追悼イベントが実施されました。

佐藤優さん　大城立裕さん
沖縄戦 70年
対馬丸撃沈70年
悲劇どう生かすか
大城、佐藤両氏が対談
歴史学ぶ重要性強調

「対馬丸事件から70年、祈念対談　今、伝え継ぐ対馬丸」（対馬丸70年祈念対談実行委員会主催、琉球新報社・那覇市教育委員会共催）が23日、那覇市民会館で開かれた。芥川賞作家で新作組踊「海鳴りの彼方～対馬丸の子ら～」作者の大城立裕さんと、作家で元外交官の佐藤優さんが対談した。高校生ら約1200人が訪れた。2人は対馬丸撃沈や沖縄の歴史文化を学ぶことの重要性を強調した。

生存者を取材し、経緯と証言をまとめた「悪石島」を1961年に刊行した大城さんは「対馬丸は行くも地獄、残るも地獄だった。沖縄近海に敵の潜水艦がいるという情報は広がっていた。しかし、手元に置いておくと戦場に巻き込まれることになる。親はそこを迷った」と説明。撃沈について語ってはいけないとかん口令が敷かれたことを「子どもにとって最も残酷だったことの一つ」と話した。

ほかにも沖縄戦を題材にした小説や戯曲を書いてきた大城さんは「何がいいのか分からないジレンマを抱え、生き抜かなければならないのが戦争の悲劇だ」と語った。

その上で「対馬丸撃沈事件をただ悲しい、むごたらしいではなく、これからの歴史にどう生かすかが重要だ」と述べた。

佐藤さんは対馬丸撃沈や沖縄戦の犠牲、過重な基地負担を挙げ、「なぜ沖縄だけ犠牲を払わないといけないのか。構造化された差別がそこにはある」と指摘した。

久米島出身の母が戦争体験の全体像を亡くなる3年前に語ったことから「一人一人に語り尽くせない物語がある。試験に出る歴史ではなく一人一人の中にある歴史を学んでほしい」と望んだ。

対談を聞いた與那嶺志織さん（16）＝沖縄尚学高校2年＝は「対馬丸のことを話すのを禁じられていたことは知らなかった。体験を話してくれている人に感謝したい」と話した。

光田結花さん（16）＝同＝は「自分たちの歴史、文化について考えた。引き継いでいかないといけない」と述べた。

大城さん、佐藤さんの話を聞く来場者＝23日、那覇市民会館

琉球新報　平成 26 年 8 月 24 日

二つの悲劇 伝える歌
対馬丸・回天 沖縄合唱団ら出演
戦後 70年へ

沖縄タイムス　平成 26 年 8 月 25 日

悪石島小中学校・島民の皆さまによる
悪石島慰霊祭・洋上慰霊祭
平成26年8月22日

悪石島では、今年も全島民が参加し、慰霊祭を行いました。

70年目の節目の年ということもあり、いつも以上に何かできることはない考え慰霊祭に先駆け、「あおぞら活動」を行っている小・中学校職員で慰霊碑の薄くなった文字に色を入れたりしました。悪石島慰霊祭が終わった後、島民1名、学校職員4名で、対馬丸沈没地点での洋上慰霊祭に出発しました。洋上慰霊祭に参加できなかった島民や職員が準備した生花・塩・米・ビール・焼酎・ジュース・タバコを海に供えました。その後、焼香し手を合わせました。

悪石島で生活する私たちにできることは、子供たちの霊を慰め、慰霊碑を守り続けていくことだと思いました。悪石島小・中学校の児童生徒及び職員、また、悪石島島民全員でこれからもあおぞら活動・対馬丸の日悪石島慰霊祭を続けていきたいと思います。

悪石島小中学校 教頭　野本正樹

あおぞら活動

悪石島小6年　有川　雅

1944年8月22日、悪石島の北西約10キロの地点で、アメリカの魚雷を受け、ちんぼつし多くの人が亡くなった「沖縄の学童疎開船・対馬丸げき沈事件」から70年目を迎えます。悪石島小学校では、対馬丸いれいひのそうじをし、ぎせい者のめいふくを祈る「あおぞら活動」をしています。

今は小中学生合わせて、5人です。人数が少なくなっても、新しくメンバーが変わっても、あおぞら活動の意義は伝えなければいけません。だから、対馬丸のことについてよく知るために、DVDや資料であらためて勉強しました。

8月22日のいれい祭では、私たちと同じ年齢の多くの人が亡くなったこと、今も船体が悪石島沖の海底に沈んでいることを考えながら、一生懸命、心を込めて活動しようと思っています。

今でも戦争をしている国があります。戦争をやめ、みんなが安心してくらせる世界ができることを願っています。（十島村）

8月19日付 南日本新聞より転載

証言聞き取り調査
平成26年7月13日・14日、 7月29日・30日

対馬丸事件から70年を迎えた今年、県内外のご遺族や生存者から、これまで得られなかった新たな証言を得ることができました。「いま伝えなければならない」という深い思いを感じました。

上野和子さん（新崎美津子訓導長女）

吉田桂子さん（西川三五郎機関長長女）

奥田一雄さん（漁船開洋丸通信士・救助者）

崎濱フミ子さん
（大阪 つしま丸をしのぶ会・生存者）

救助者（杉本寛氏）手記 寄贈式
平成26年5月11日

小桜の塔清掃・化粧直し
天妃小学校6年生 平成26年6月19日

社）日本塗装工業会沖縄県支部
沖縄県左官業組合連合会
平成26年6月13日

ドキュメンタリー「対馬丸へ―今を生きる私たちから―」試写会・記者発表会
平成26年8月6日

鯉のぼり掲揚
平成26年5月3日

ともに伝え継ぐ―つながることの心強さとともに

学芸員　慶田盛　さつき

対馬丸が撃沈されてから70年、人ひとりの寿命（人生）ほどの歳月が過ぎた。

今年に入り、対馬丸記念館には例年に比べ多くの情報が寄せられている。ご遺族や同級生などからの遺影や遺品等関係資料もあるが、生存者による証言や遺族からの犠牲者にまつわるお話も多く寄せられている。節目の年を迎えるにあたり、何をしなければならないのか日々考えつつも時間だけが過ぎていく中で、これらの動きに正直驚いている。「なぜ、今なのか・・・」

今年5月、救助者の手記が寄贈され大きな反響となった。対馬丸遭難現場の生々しい描写や救助活動の様子等、救助に携わった者の書き記した証言として、また救助者の存在を証明する資料として、これまでにない貴重な資料となった。

「甥っ子のことが何か書かれているかもしれない」「私たちがどのような状況で助けられたのか知りたい」「あのとき子どもたちを助けようとしてくれた人が居たことが分かっただけでも心強い。感謝の意を伝えたい」。手記に綴られた救助者の思いが70年を経て生存者やご遺族とつながり、犠牲者のもとに届いた。思い起こせば、この寄贈が県内外へ報道され人々の思いが寄せられるきっかけになったように思う。

6月、対馬丸機関長の娘（神奈川県在）が父を思い詠んだ短歌があるとの連絡があり、お手紙や写真等家族の思いの詰まった関連資料を見せて頂いた。また、大阪にお住いの生存者から「対馬丸をしのぶ会」の名簿や写真等資料を寄贈したいとの連絡があり、ご自身の体験とともに遺族会関連の貴重な資料を頂いた。京都に住む船員の弟さんからは、兄と共に犠牲になった子どもたちへ冥福を祈る言葉と対馬丸事件のことを知りたいとのお手紙が届いた。全国にも、対馬丸と寄り添い過ごしてきたご遺族や生存者等がいることを実感する。

また、寄せられる情報は資料だけではない。「これまで父は遺族として慰霊祭に参加していたが、実は生存者でした。」生前父が抱えてきた思いを伝えたい、父や対馬丸事件のことを知りたいと来館した娘や、「母が大切にしまい込んでいた兄弟の写真を遺影として展示して欲しい」と持参し親の思いを語ったご遺族など、当事者が伝えられなかった思いを家族が代わって伝えに来てくれた。

これまで口を閉ざしてきた生存者が、初めてその体験を語ってくれることもある。大切な家族や友人などを亡くしながら壮絶な漂流体験の中を助けられた後、語ることを禁じられ、いつしか「生き残ってしまった」との罪悪感の様な思いを持ち続け生きてきた生存者が、70年の思いを言葉にするにはこれ程の長い年月を必要とする。今のうちに話し伝えなければいけないという強い思いから、回想録として文字に書き残した方もいる。

今年は、これまで大切に保管していたお写真を提供するご遺族も多く、8月22日までに10枚追加、さらに12月までに新たに9枚加わる予定である。お写真の提供により、私たちはこれまで名前のみだった犠牲者の人柄などを知り、初めて会うことができる。対馬丸事件を共に伝えていく上でとても有り難い。と同時に、いま遺影として提供いただけることの意味を伝えていかなければならない。

70年の節目にあたり、たくさんのご遺族や関係者とのつながりをもたせていただいている。一人ひとりと向き合い、犠牲者を知ることで、一人また一人とつながっていく。それが何よりも嬉しく心強い。話を聞いた後、気持ちが深く沈むことが幾度とある。しかし、話して頂いたことをしっかりと伝えていかなければならない。それがせめてもの恩返しであり、生かされている私たちの責務である。そして、今も口にすることが出来ず見守ってくれている方々へ、対馬丸記念館が日々活動していることを発信し続ける事が、いま確実にできる事であり、新たなつながりをつくる一歩になると信じている。

手記にも登場する救助者の奥田一雄さん、「対馬丸のことは今でも忘れたことはない。戦争は二度とやってはいけない」右足の後遺症とともに、日々対馬丸へ心を寄せている。今何をしなければならないのか、それは「ともに伝え継ぐ」ことなのではないかと感じる。

協賛金支援のお願い

対馬丸生存者の証言を時間軸で綿密にたどった、文部科学省選定ドキュメンタリー映画、『**対馬丸へ 今を生きている私たちから―対馬丸生存者の証言―**』は、対馬丸事件そのものの証言からなる第1部と、生存者の子どもの頃の遊びや、救出後の出来事や十・十空襲、疎開先での生活などの第2部からなる2部構成で作られた見応えのあるドキュメンタリー作品です。

製作者の齋藤勝監督の熱い思いで完成しました。しかしながら自主制作作品の常として商業的な成功を見込んだものではありません。

「沖縄戦を象徴する対馬丸事件ですが、商業目的とは一線を画す映画製作のため、資金調達も通常の方法では困難です。そのため広く皆様からのご支援をお願いさせていただいております」と齋藤勝監督からもメッセージを頂いています。

遺族・協力会員の皆様のご支援をお願いいたします。

■協賛について

個人・企業を問いません

一口一万円

■お礼（特典）

『対馬丸へ』DVD

（一口一枚贈呈）

■協賛金振込先

◉ゆうちょ銀行総合口座ぱるる

記号14140

番号8574891

口座名称　銀の鈴製作委員会

（ギンノスズセイサクイインカイ）

◉三井住友銀行

立売堀（いたちぼり）支店

口座番号　1414193

口座名称「銀の鈴」製作委員会　齋藤　勝

■お問合わせ　劇団ARK銀の鈴

製作委員会　〒571-0062

大阪府門真市宮野町19-7

TEL・FAX 072-883-7941

来館・視察

□5月3日
佐藤裁也 内閣参事官・内閣府参事官

□6月23日
田村憲久 厚生労働大臣（当時）

□6月23日
山本一太 沖縄担当大臣（当時）

□6月23日
後藤田正純 内閣府副大臣（当時）

□6月23日
中川正春 民主党幹事長代行（当時）

□6月24日
アルフレッド・マクルビー 沖縄米国総領事

□7月4日
武田良太 防衛副大臣（当時）

□8月13日
宮原耕治 日本郵船㈱代表取締役会長

□9月16日
松林博己 内閣府沖縄政策担当参事官

トピックス

□5月3日
小桜の塔へ鯉のぼり掲揚

子どもの慰霊碑である小桜の塔に鯉のぼりを掲揚したいと、家庭で眠っている鯉のぼりの寄付を呼びかけたところ、趣旨に賛同した方々から贈呈された鯉のぼりが小桜の塔に掲揚されました。

これは、小桜の塔が建立された昭和二十九年（１９５４）５月５日はこどもの日であったことから塔の両脇に鯉のぼりがはためいていた事にちなんで復活させたものです。（写真６頁）

□5月11日
救助者の手記寄贈式

対馬丸事件で生存者の救助にあたった、故杉本寛さんの奥様佐賀子さんより救助時の事を克明に記した手記が当館に寄贈されました。（写真６頁）

□6月13日
小桜の塔お化粧直し

天皇・皇后両陛下の行幸啓を前に、㈳日本塗装工業会沖縄県支部（支部長稲嶺恒行）と沖縄県左官業組合連合会（会長道鬼正二）の両団体による奉仕活動により、小桜の塔がお化粧直しをしました。（写真６頁）

□6月19日・8月17日
小桜の塔清掃

毎年恒例の平和教育で天妃小学校６年生による小桜の塔清掃が今年も行われました。また、慰霊祭を控えた８月17日にも、上山中学校剣道部と、なは群星の会の協力で慰霊塔周辺がきれいに清掃されました。（写真６頁）

□8月6日
証言映像完成記者発表会

対馬丸事件を題材とした映画「銀の鈴」を製作・監督した大阪在住の、劇団ＡＲＫ主宰の齋藤勝さんが足掛け５年をかけて撮影した、生存者の証言映像が「対馬丸へ」というドキュメンタリー映画として完成し、試写会と記者発表が行われました。文科省の選定を受け学校などの平和教育などで活用されます。（６頁に写真、７頁に関連記事）

□8月14日
那覇市平和教育担当教員研修会

昨年より対馬丸記念館と那覇市教育委員会との共催で実施されている平和教育担当教員研修会が行われ、生存者の糸数裕子さんと県平和祈念資料館の学芸員平田守さんのお二人が講演しました。

イベント

□6月23日
なは群星の会平和イベント

毎年恒例になった同会による平和イベントが今年も記念館前の広場と階段を使ってダイナミックに繰り広げられました。歌や踊りに群読を加え、演劇の要素も取り入れた独特の舞台を構成する同会の活動は近年評価が高まっています。

□8月17日
エイサー奉納及び ぶくぶく茶献茶式

平敷屋エイサー保存会（会長仲尾清治）の会員と、ＮＰＯ法人「琉球茶道あけしのの会」の皆さんが対馬丸記念館を訪れ、それぞれ奉納と献茶を犠牲者に捧げてくださいました。

ご寄附

□4月30日

宮古出身の歌手、宮園ゆう子さんがチャリティ公演の収益金の一部を寄付下さいました。

□3月21日～8月30日

安藤和枝、真栄城修、比嘉正詔、立正佼成会、金城節子、平良啓子、津波古ヒサ、砂川みさ子、宮園ゆう子、匿名、太田勝之、がじゃんびら会（渡慶次正一）小坂井眞砂子、大森節子、宮城初枝、湧川秀子、兼島宏、喜瀬常子、宇久田貞子、宇久田友孝、阿蘇友の会、カンダマサトシ、青木忠、大城君子、山口ミチ子、上原はつ子、屋比久嘉光、國吉綾子、嘉数昇明、森山英子、かやぶち会、佐久本敏子、仲座盛助、福田節子、イエス団京都ブロック、宮里千恵子、平良輝子、太田依子、喜瀬常子、受付募金箱、芳賀順雄、福西啓八、豊岡君江、東盛キヨ子、土肥義胤、高原佳代子、東風平朝正、森鶯順子、坂本裕子、日本郵船㈱、阿嘉宗徹、髙良一實、比嘉恵子、知念光子、喜友トミ、総義歯研究会、泉設計（當間卓）、慰霊祭参列者香典、髙良政勝、渡口眞常、外間邦子、泊先覚顕彰会、屋良和子、野原三義、比嘉美智子、宮國泰明、川上桂子、島袋侑哲　則子、太田恭子、島谷敦子、島袋哲英、島袋誉之、平良静子、宇根なおみ、藤田匡子、佐次田忠正様。以上の方々から頂戴しました。心よりお礼申し上げます。